日本鉄鋼連盟

全国7会場でセミナーを開催

「建築構造用鋼材」テーマに

日本鉄鋼連盟は2日、東京都千代田区の富士ソフトアキバプラザでメーカーや設計者、ゼネコン、ファブら約150人を集め、第12回「建築構造用鋼材と利用技術セミナー」を開催した。

冒頭のあいさつで建築委員会の村上行夫副委員長（JFEスチール建材センター建材技術部建築技術室主査）は、当日の講演内容と建築委員会の取り組みを紹介した。

同セミナーは東京をはじめ、大阪、福岡、札幌、広島、仙台、名古屋の全国7会場で順次開催され、会場ごとに異なるテーマで基調講演が行われた。東京会場は吉敷祥一・東京科学大学教授が「軽量鉄骨乾式間仕切り壁の保有性能に関する研究」と題して基調講演を行った。

また、その他の講演では建築用鋼材に関するメーカーとしての最新の取り組みを中心に解説。同委員会の木下智裕幹事（JFEスチール建材センター建材技術部建築技術室主査）は「日本の鉄構業におけるカーボンニュートラルの実現に向けた取り組み」をテーマに、電炉の活用やGXスチール、水素鋼、行政との連携、さらに28年度に開始するとされている建築物におけるライフサイクルカーボンの算定などに触れた。

続いて、村上副委員長は「鋼材品質証明書（ミルシート）の電子化に向けた取り組み」をテーマに、そのメリットと導入に向けて検討されているガイドラインを紹介した。

最後に建築研究所建築生産研究グループの沖佑典主任研究員が「建研・国総研による鉄骨造建築物に関する最近の研究」をテーマに、鋼製ブレースの補強や耐震レジリエンス性能の評価、軽量鉄骨下地間仕切り壁の力学性能に関する3つの研究を紹介した。

約150人が参集した東京会場